

平成27年第1回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成27年1月14日(水) 午後1時30分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席委員 橋田委員長, 小葉松委員, 佐藤委員, 須田委員, 山本委員
- 4 欠席委員
- 5 事務局 政田生涯学習部長, 平井生涯学習部次長, 對馬生涯学習部次長,
阿部管理課長, 齋藤学校教育部参事3級, 田中指導主事

6 傍聴者 1名

7 付議事項

- 日程第1 議案第1号 平成27年度教育に関する歳入歳出予算に係る意見の提出に関し, 議決を求めることについて
- 日程第2 議案第2号 平成26年度教育費補正予算要求に関し, 議決を求めることについて
- 日程第3 議案第3号 函館市立五稜中学校・函館市立大川中学校・函館市立桐花中学校統合校の校名に関し, 議決を求めることについて
- 日程第4 議案第4号 平成26年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果の公表に関し, 議決を求めることについて

■橋田委員長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 小葉松委員, 佐藤委員を選任。
- 本日の日程のうち, 日程第1, 議案第1号「平成27年度教育に関する歳入歳出予算に係る意見の提出に関し, 議決を求めることについて」および日程第2, 議案第2号「平成26年度教育費補正予算要求に関し, 議決を求めることについて」を「秘密会」としたいがいかがか。
- 異議がないので, 秘密会とさせていただきます。
- それでは, 日程第1, 議案第1号「平成27年度教育に関する歳入歳出予算に係る意見の提出に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

(秘密会につき, 会議録省略)

■橋田委員長

- 議案第1号は, 原案のとおり可決する。
- 次に, 日程第2, 議案第2号「平成26年度教育費補正予算要求に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

(秘密会につき, 会議録省略)

■橋田委員長

- 議案第2号は、原案のとおり可決する。
- 傍聴者の入室を許可する。

(傍聴者入室)

- 次に、日程第3、議案第3号「函館市立五稜中学校・函館市立大川中学校・函館市立桐花中学校統合校の校名に関し、議決を求めることについて」を諮る。

■生涯学習部長

- 日程第3、議案第3号「函館市立五稜中学校・函館市立大川中学校・函館市立桐花中学校統合校の校名に関し、議決を求めることについて」説明する。
- 本議案については、3校の統合準備委員会より、校名候補について要望書の提出があり、今後の統合準備を進めるにあたり、校名を早期に決定してもらいたいという要望があったことから、統合校の校名を決定していただきたいというものである。
- 統合準備委員会は、3校のPTA、評議員、学校職員の代表21名で組織されており、統合校開校に係る様々な事項を検討しており、統合校の校名候補の選考が行われたものである。
- 選考においては、「短い表現で親しみやすいものとする」、「現在の3校の名称をそのまま残さない」、「地域に愛され、卒業後も愛着と誇りの持てる校名とする」といった考え方に沿って進められ、統合準備委員会では、3つの校名候補を選考した。
- 第1候補として、「五稜郭」、第2候補として、漢字の異なる2つの「せいりょう」となっている。「五稜郭」については、函館の歴史や風土が感じられ、全国的にも知名度が高く、子どもたちがいつまでも誇りと愛着を持てる校名であるということ、また、五稜郭公園が統合校の校区内にあるということから、3校の地域にとって、身近で馴染みがあり、3校統合の象徴となる校名であるといった理由により選考されている。2つの「せいりょう」については、まず、いずれも「稜」の字を使用することで、この字のもつ「際立ったもの」という意味と、五稜郭をイメージさせることで地域性を表している。「青」については、若々しく成長する姿を表し、「清」については、清々しい、心や行いが清く正しいという意味から新しい学校のイメージを表している。
- 統合準備委員会では、3校が対等の立場で統合し、3校の地域みんなで新しい学校をつくっていくという考えから、市民に親しまれる新しい名称を目指して選考を行ったということである。
- 特に、「五稜郭」については、地域に愛され、生徒たちが誇りを持てる校名と考え、第一候補としたとのことである。
- また、要望書提出の際に、統合準備委員会の風間委員長からは、「五稜郭」という名称は、函館市内では、校区内に五稜郭があるこの学校にしかつけることのできないものであるということで、統合準備委員会内でも大きな支持を得ており、このような関係者の意向を汲みとっていただきたいとの説明があったところである。

■橋田委員長

- 議案第3号について何かあるか。

■小葉松委員

- 漢字3文字となるが、他に漢字3文字の校名はあるのか。

■生涯学習部長

- 市内では、銭亀沢中学校などがある。

■佐藤委員

- 地域性を考えると、全国にも五稜郭というのは周知されており、函館独自の校名ということで「五稜郭」が最も良い名称だと思う。

■山本教育長

- 準備委員会の要望を尊重したいと考えている。必ずしも、現在の校名を残さないということではないが、多くの人々が支持できる名称ではないかと思う。

■小葉松委員

- 今回の3校の校名とは違うかもしれないが、今後、統廃合がすすめられていく中で、校名を残した方が良い学校もあると個人的には考えているが、今後も既存の校名を残さないという考えなのか。

■山本教育長

- 今回の場合は、3校が対等な立場で新しい学校をつくるという観点から、既存の校名を残さないという結論になったが、必ずしも既存の校名を残さないということではない。

■小葉松委員

- 統合する学校に委ねると、新たな校名をつけることになると思う。函館の歴史的な観点も考慮された上で、校名の検討がされてほしいと思う。統合準備委員会は、当事者のみの構成なので、もっと広い観点から考慮できるように、市の職員や全く別の地域の住民を加えても良いと思う。

■橋田委員長

- 小葉松委員の意見が出されなかったら、今後の統合校の校名については、新しい校名にするというのが一つの考えになっていると思う。既存の校名には、子どもたちが誇りや自信を感じられるものもあることから、全てを新しい校名にする必要もないと思う。今回の校名検討に関しては、異論は全くないが、今後の校名検討の際には、検討していただければと思う。
- 委員の意見を踏まえて、今後の統合校の校名検討の考え方について事務局に伺う。

■学校教育部参事

- 今後については、人選も含めて委員からご指摘があった点を準備委員会に助言したいと考えている。

■須田委員

- 既存の校名を残すことは、統合ではなく吸収合併と受け止める人も居て、統合を行うことも危うくなるようなことに発展しかねないので、非常に慎重に検討するのが良いと思う。

■橋田委員長

- 各委員の意見をまとめると全会一致で五稜郭中学校ということなので、統合校の校名については、五稜郭中学校に決定する。

- 次に、日程第4、議案第4号「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表に関し、議決を求めることについて」を諮る。

■生涯学習部長

- 議案第4号「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表に関し、議決を求めることについて」説明する。
- 函館市における平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の市としての公表の方法について、判断いただきたいと思うが、その前に、本市の調査結果を説明する。
- 本調査は、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、改善を図るとともに、継続的な検証改善サイクルを確立すること、また学校における指導などの改善に役立てることを目的とし、国・公・私立学校の小学校第5学年および中学校第2学年の全児童生徒を対象に、悉皆調査をしているものである。
- 調査の内容については、8種目の実技に関する調査と、質問紙調査の2つで構成されている。
- 本市の児童生徒の体格の状況であるが、身長、体重ともに、全国平均を上回っている。また、小学校の男女、中学校の男子において、全国平均と比べて、軽度・中等度の肥満の出現率が高い傾向が見られる。
- 続いて体力であるが、小中ともに、握力と、中学校において、長座体前屈で、全国平均を上回ったが、他の種目は全国平均と同等、もしくは下回る結果となっている。中学校男子の反復横跳び、女子は上体起こしを含む4種目で全国平均を下回っている。
- 次に、経年の変化についてであるが、小学校男子の体格については、8種目中5種目、女子は8種目中6種目で昨年度より数値が高くなっており、中学校は男女とも8種目中6種目で昨年度より数値が高くなっている。
- この調査結果について、市としての公表の方法について諮りたいと考えている。公表については、1つ目は「市全体の結果の公表について」、2つ目は「学校ごとの結果の公表について」、3つ目は「道教委の求めている結果報告書への掲載について」である。
- 本市全体の児童生徒の状況を表す情報を、できる限り市民とともに共有するとの考えから、本市全体の体力合計点や種目別平均等を数値やその他の方法で公表することとし、学校別の結果の公表については、無用な学校間の序列化や過度な競争につながり、子どもたちの心を傷つける恐れがあることから、行わないこととしたいと考えている。また、各学校においても、保護者に対してわかりやすく説明することは必要なことではあるが、公表の仕方や内容については、慎重な対応が必要であると考えている。
- そして、道教委に対しては、道教委が示す基本フォーマットに沿って、本市の調査結果を報告書に掲載することは、①平均値の優劣、順位の上下に目が行きがちになり、自分の可能性を高めるという考え方よりも、それぞれの種目について得点が高ければ高いほどよいというような競争意識が生まれ、運動の苦手な子どもの気持ちをさらに萎縮させる可能性があること。②学校によっては、測定者が子どもであったり、教員であったりなど、記録方法の違いや測定機器の正確性など、測定値の客観性・公平性等が必ずしも保障されていないこと。③体力要素の異なる種目を一律にまとめ、合算化した数字を『体力合計点』として明らかにしていること。などをマイナス面として考えているが、学力と合わせ、体力結果についても実態を市民と共有し、市民ぐるみで一層の向上をめざすことも大切と考え、北海道教育委員会への掲載については、同意が望ましいと考えるが、体力合計点を数値で掲載することについては、行わないこととしたいと考えている。
- これらの公表についての考え方については、議決後、各小中学校へ通知するとともに、道教委に対しては、報告書への掲載同意について報告する。

■橋田委員長

- 議案第4号について何かあるか。

■佐藤委員

- 小学校の男女，中学校の男子で肥満の出現率が高いということだが，教育委員会として対策は行っているのか。

■田中指導主事

- 学校で体育の授業などにより，運動をする機会をもうけているが，教育委員会としては，引き続き啓発活動をしていきたいと考えている。

■須田委員

- もっと積極的に結果を公表してもよいのではないか。

■山本教育長

- 函館市は，これまで結果の公表をしておらず，今年度から公表しようとするものであり，今後においても，公表範囲の検討は必要だと考えている。

■橋田委員長

- 議案第4号は，原案のとおり可決する。

■終了宣言

- 午後2時40分

議事録署名人 小葉松 洋 子

〃 佐 藤 敬 一

調製者庶務係 水 山 学